



『5つの提言』を受けて、 今やるべきこと(2)

—ジャンル準拠指導を生かしたWriting指導の一実践

大岩 樹生 Ohiwa Tateo (新潟県新潟市立白新中学校)

1. はじめに

Writingの課題において、「先生100語以上書いたよ!」と言う生徒に、「よく書いたぞ、偉い」と返す。このような経験はないだろうか。しかし、よい文章はなにも量だけでは決まらない。目的に合わせ、量的にも質的にも「適切さ」があるはずである。今回は、Writingの指導に焦点を当てた実践を紹介する。

についてのスピーチ原稿を書くという課題を設定した。指導に当たっては、次の手順で行った。

- (1) 目的の共有
- (2) 教科書本文の分析と評価基準の共有
- (3) 学習タスク×2
- (4) 評価タスク

以下、それぞれの指導の具体について記述する。

2. 実践のきっかけ

複数の教科書において、NEW CROWN Book 1のLESSON 8 “School Life in the USA”のような「他国の中学校のカリキュラム等の紹介」やBook 3のLESSON 6 “I Have a Dream”のような「偉人紹介」といった題材が扱われている。

その際、単元の終末に、NEW CROWNにあるMini-projectのような統合型のタスクが用意されており、本文を参考にし、自分の状況にあった文を作成する表現活動が設定されている教科書もある。例えば、NEW CROWN Book 1のLESSON 8であれば、自国の中学校のカリキュラムに合わせて、“I am studying English. It is my foreign language. I like it. I study English four times a week.”(下線部は置き換えた箇所)のように置き換えるといった具合だ。SpanishをEnglishに置き換える程度であれば簡単だが、「偉人紹介文」を書かせるということになると、話は別だ。どのように指導すべきか、見当すらつかなかった。

そこで、新潟大学教育学部の松沢伸二教授にジャンル準拠指導について指導を仰ぎ、本実践を行った。

(1) 目的の共有

本単元の課題を提示した際、2年生の英語教員から3年生の生徒に、次のような依頼をもらった。「Book 2のLET'S READ 2 “Landmines and Aki Ra”を読んだ後、簡単な偉人についての紹介文を書かせたいのだが、君たち3年生の原稿を見本として2年生に示したい。」

これにより、「読み手」は「後輩」で、「目的」は「後輩にレポートの見本を示すため」という確認がなされ、活動がスタートした。

(2) 教科書本文の分析と評価基準の共有

Book 3のLESSON 6 USE Mini-project「尊敬する人物を紹介しよう」では、最初にジョージと由美の「私の尊敬する人」というタイトルのスピーチを聞き、情報を表にまとめるという課題を課している。ジョージはキング牧師、由美は登山家の田部井淳子さんについて「生まれた場所・年」「何をした人か」「尊敬する理由」等について発表している。以下は、田部井淳子さんについてのスクリプトである。

Hello, everyone. I'm Yumi. Today I'm going to talk about the person I respect.

The person I respect is Ms Tabei Junko. She was born in Fukushima Prefecture in 1939. She played an important part in the history of climbing. She was the first woman that stood on the top of the highest mountain in the world. She also climbed the highest

3. 指導の実際

Book 3のLESSON 6 USE Mini-project「尊敬する人物を紹介しよう」において、尊敬する人物

mountain on each of the seven continents.

I respect Ms Tabei because she never gave up climbing in difficult times. One thing I learned from her life is the importance of courage and patience. Thank you.

[98 words]

キング牧師についてのジョージの発表原稿のスク립トとともに上記を生徒に示し、Opening, Body, Closingのパラグラフとその内容について問うた。生徒の分析から、構成を以下のように確認した。

Opening : 挨拶, スピーチの案内

Body : 偉人の経歴, エピソード

Closing : 尊敬する理由, 挨拶

ここで、次のように問うた。

"You think this is a good report. But ... is this really good?"

生徒は戸惑いながらも、不十分だと思われる点を探すために、何度も熟読した。その結果、多くの生徒が以下の点に気付くことができた。

尊敬する理由につながるエピソードがない。

これにより、Bodyを2パラグラフとし、1つ目はその人物の基礎的な情報について、2つ目はその人物を尊敬する理由につながるエピソードを記述することとした。その他にも「一番高い山の名前が分からない」「いつ山に登ったか分からない」「今も健在なのか分からない」といったコメントがあり、これらをまとめて「5W1Hについての情報が不足している」とまとめた。

これらの指摘を受けて、教科書スク립トをリライトし、生徒に以下の文章を提示した。

Hello, everyone. I'm Yumi. Today I'm going to talk about the person I respect.

The person I respect is Ms Tabei Junko. She was born in Fukushima Prefecture in 1939. She played an important part in the history of climbing. She was the first woman that stood on the top of Mt Everest in 1975 which is the highest in the world. It is 8,848

meters high! She also climbed the highest mountain on each of the seven continents.

When she was trying to climb Mt Everest, her tent was broken by a big snowslide. Fortunately, nobody died and she was helped by members of other tents. Everyone said, "We should stop climbing!" But she never gave up. Finally, she made it!

I respect Ms Tabei because she never gave up climbing in difficult times. She is 73 years old now, but she still climbs some mountains every year! One thing I learned from her life is the importance of courage and patience. Thank you.

[165 words]

※下線部筆者加筆

上記の文章を読み、「尊敬する人物」というタイトルでスピーチ原稿を書く際の評価基準を、生徒とともに以下のようにまとめた。

項目	✓	基準
項目	<input type="checkbox"/>	Opening, Body, Closingで原稿が構成されている。
	<input type="checkbox"/>	語数は150語程度でパラグラフ数は4つ。(Opening 1, Body 2, Closing 1)
内容	<input type="checkbox"/>	Closingの尊敬する理由を裏付けるエピソードがBodyで述べられている。
	<input type="checkbox"/>	5W1Hの情報が適切に入っている。
言語	<input type="checkbox"/>	関係代名詞を用いている。

また、ジョージと由美の発表原稿スク립トを見ながら、どの偉人を紹介しても同様に用いられそうな表現([IDEA BOX], p.75, Book 3)を確認した。

(3) 学習タスク×2

《学習タスク1》

上記の基準に従い、メジャーリーガーのイチローを例に「私の尊敬する人」のスピーチ原稿を書くという学習タスクを課した。生徒には、Webサイトにあったイチローについての基本的な情報と、彼が人一倍道具を大切に扱うというエピソードとを、一緒に提示した。

生徒はこれを見て、次のような構成を考え、辞書を用いながら、「私の尊敬する人ーイチロー」の発表原稿を作成した。

Opening : 挨拶, スピーチの案内
Body 1 : イチローの一般的な情報
Body 2 : イチローが道具を大切に作るエピソード
Closing : イチローを尊敬する理由, 挨拶

《学習タスク2》

生徒が書いた文章を丁寧に添削し、よく書けているものについて学級全体に紹介した。

次に、自分が尊敬する人物についての発表原稿を作成した。イチローについて一度書いているので、多くの生徒が、学習タスク1ほど時間をかけずに書き終えた。

学習タスク1と2の両方において、常に「評価基準表」を参照させ、条件を満たすように作成させた。学習タスク2においても、生徒の原稿を添削し、教科書本文の分析の際にまとめた自作の「IDEA BOX」に、複数の生徒が用いた“As you know ~”や“play an active part in ~”などの表現を加え、いつでも参照できる一覧にし、配布した。

(4) 評価タスク

最後に、メジャーリーグの選手だったピート・グレイの情報を提示し、次の条件で生徒に発表原稿を書かせるという評価タスクを課した。このタスクは定期テストとは別日に実施した。

- ・辞書、「IDEA BOX」を使用してもよい。
- ・制限時間は45分。
- ・評価基準表は見てはいけない。

ピート・グレイはBook 3のLESSON 1 “My Favorite Words”で紹介されており、また、学習タスク1で同じメジャーリーガーであるイチローについての原稿を書いていることもあり、多くの生徒が最後まで書き終えることができた。

4. 実践の成果と課題

結果的に85%の生徒が、評価基準表の5項目中4つ以上にチェックすることができた。このような結果に至った要因として、以下の2点が挙げられる。

- ① モデリングの工夫
- ② 十分な量の学習タスク

①について：ジャンル準拠指導においては、Modelingから入る。よいモデルを提示し、その構成、内容について共通理解を図る。今回は、教科書のモデルを、あえて不十分な例として提示した。批判的思考力を刺激し、望ましい構成や内容について自ら考えさせるためである。教師側の意図があったにせよ、BodyとClosingの有機的なつながりや150語程度で書くことについては、生徒が自分たちで定めた（と思っている）ので、不満をもらすことなく、黙々と書いた。

②について：目的の共有から、評価タスクまで全部で6時間を費やした。この6時間、生徒はかなりの量の文章を書いた。書くことに慣れ、最後は「IDEA BOX」を見ずとも書ける生徒が多くなっていった。

上記①と②により、指導と評価の一体化が図られたが、評価基準表の内容については、実践を重ねていく中で、加除修正していく必要がある。特に「5W1Hの情報が適切に入っている」について、「適切に」という文言が曖昧であったため、判断できない生徒が複数見受けられた。また、評価タスクの妥当性について精査する必要がある。今回はピート・グレイを扱ったが、生徒の予備知識も含めて、偉人を選択する必要があるだろう。

5. おわりに

私自身、Writingに関する過去の指導を振り返ると、これといった指導もせず、ひたすら書かせ、文法・語彙面のみにかかわり添削していたように思う。今回は、ジャンル準拠指導に基づき、活動を設定した。低位の生徒が意欲的に取り組む姿に感動し、今までの無策を反省した。3年生のある生徒は、今回の取り組みについて「毎回自分の文章が良くなっていくのが分かった」や「型が決まっている部分があり、書きやすかった」と述べた。また、3年生の作成原稿を2年生に見せたとき、それらが45分で作成された原稿であり、多くの生徒が160語以上記述していたということに驚き、羨望の眼差しで読んでいた。そして、新3年生の定期テストにおいて、今回3年生が作成した原稿の1つを、Book 2のLET'S READ 2 “Landmines and Aki Ra” とパラレルなテキストとして提示した。